



「第33回 国公立大学情報システム研究会総会」

(2025年3月7日開催)
総会議事・開催後アンケート結果 (サマリ)

2025年3月
IS研事務局

第33回 国公立大学情報システム研究会総会プログラム

内 容 (発表者名敬称略)	
開会挨拶	IS研 会長 横浜国立大学 国際戦略推進機構 学長特任補佐 徐 浩源
議 事	IS研 事務局
【論文①】「SSHに対する攻撃の防御策」	鹿児島大学 大学院理工学研究科工学専攻 学生 今村駿介
【北海道ブロックからの活動報告】「北海道ブロック 活動報告」	北見工業大学 情報処理センター長 升井 洋志
【論文②】「ゲーミフィケーションを用いた授業支援システム」	鹿児島大学 大学院理工学研究科工学専攻 学生 岡本 雅生
【東北・関東ブロックからの活動報告】「東北・関東ブロック 活動報告」	山形大学 情報ネットワークセンター 教授 田島 靖久
【論文③】「APIコールの時系列情報に基づくLSTMによるマルウェアの早期検知と分類」	大阪公立大学 大学院情報学研究科 学生 丸若 弘介
【東海ブロックからの活動報告】「東海地区における活動について」	三重大学 情報基盤センター 助教 堀川 慎一
【論文④】「半教師あり学習による悪性ドメイン検知」	大阪公立大学 大学院情報学研究科 准教授 青木 茂樹
【北陸ブロックからの活動報告】「北陸地区ブロック活動報告」	北陸先端科学技術大学院大学 准教授 本郷研太
【論文⑤】「兵庫県立大学の情報新システム（第Ⅴ期）の設計と構築」	兵庫県立大学 学術総合情報センター 准教授 林 治尚
【近畿ブロックからの活動報告】「近畿ブロックの報告」	大阪公立大学大学院 情報学研究科 教授 宮本 貴朗
【論文⑥】「分散キャンパスにおける通信機器のキャンパス間冗長運用による可用性向上と低コスト化」	山形大学 准教授 伊藤 智博
【九州ブロックからの活動報告】「九州ブロック活動報告」	鹿屋体育大学 スポーツ情報センター センター長 和田 智仁
閉会挨拶	IS研議長 山形大学 情報ネットワークセンター 教授 田島 靖久

- ◆日時：2025年3月7日（金） 13:00~17:10
- ◆参加者数：19名（大学関係者のみ）※その他（富士通Japan株式会社）：24名
- ◆参加大学
- ◆場所：Fujitsu Uvance Kawasaki Tower M202大会議室

大分大学 北見工業大学 山形大学(2)	大阪教育大学 兵庫県立大学 横浜国立大学	大阪公立大学(2) 北陸先端科学技術大学院大学(2)	大阪公立大学大学院	鹿児島大学(4) 三重大学	鹿屋体育大学 宮崎大学
---------------------------	----------------------------	-------------------------------	-----------	------------------	----------------

議事

1. 議事において、下記議案が参加された会員より了承を得て可決された。

【ご報告】 2023年度 決算報告

－会計監査：堀川先生より監査実施済

【1号議案】 2024年度 決算報告(仮)

【2号議案】 2025年度 予算(案)

2. 発表について

論文（6件）、各ブロックからの事例発表（6件）

開催後アンケート結果

1 アンケート概要

2 回答結果

アンケート概要

目的

- ①参加のきっかけ、満足度などを収集し、総会の改善を図る
- ②参加大学の状況・重点テーマ等を収集し、IS研の今後の活動の活性化を図る

実施期間

2025年3月7日（金）～ 2025年3月12日（水）

対象者

本総会参加申し込み者
（IS研会員・IS研会員大学関係者）

方法

記名方式による調査、メダリアアンケート基盤のアンケート機能

アンケート回答状況

◆ 回答数／対象者数：12／19（大学関係者のみ）

◆ 回答率：63.2%

◆ 回答された大学・学校名

大分大学
北陸先端科学技術大学院大学

大阪公立大学

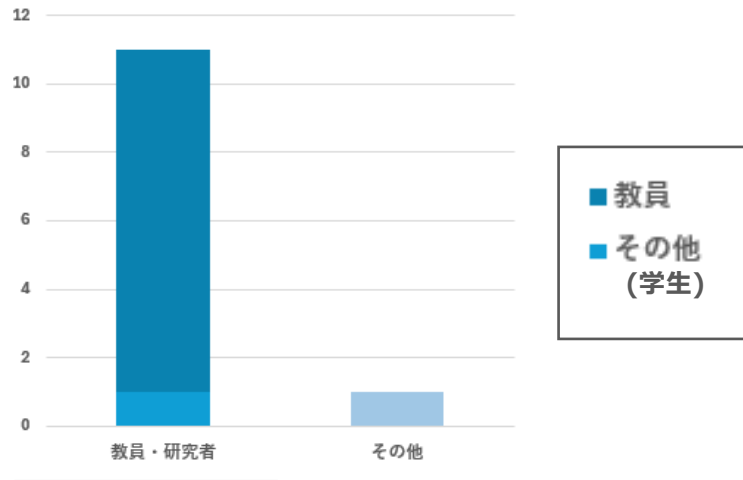
鹿児島大学(3)
三重大学

鹿屋体育大学
山形大学(2)

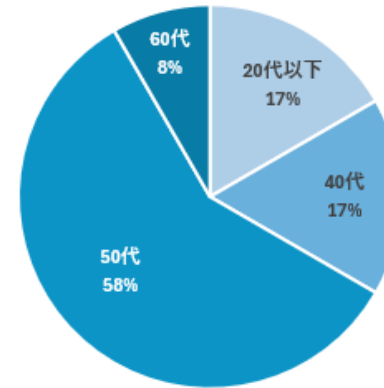
北見工業大学
横浜国立大学

アンケート回答者属性

■ 担当業務と役職



■ 年齢層



アンケート設問

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～4

1. 有益または参考になった発表を教えてください。
2. 本日の総会の発表で得られた成果(疑問や課題等含めて)をお書きください。
3. 貴学のシステムについてベンダーに期待されることがありましたらお書きください。
4. 大学DXに関連して関心をお寄せの事例やテーマがあれば教えてください。

『総会の参加目的・満足度』に関する設問5～8

5. 今回の総会に参加した目的を教えてください。
6. 本日のイベント全体の満足度を教えてください。
7. 満足度評価の理由を教えてください。
8. 総会の以下の項目について、それぞれの満足度について教えてください。
(各ブロックからの事例発表 / 論文発表 / 時間配分 / 当日の運営)

『IS研への期待・意見』に関する設問9

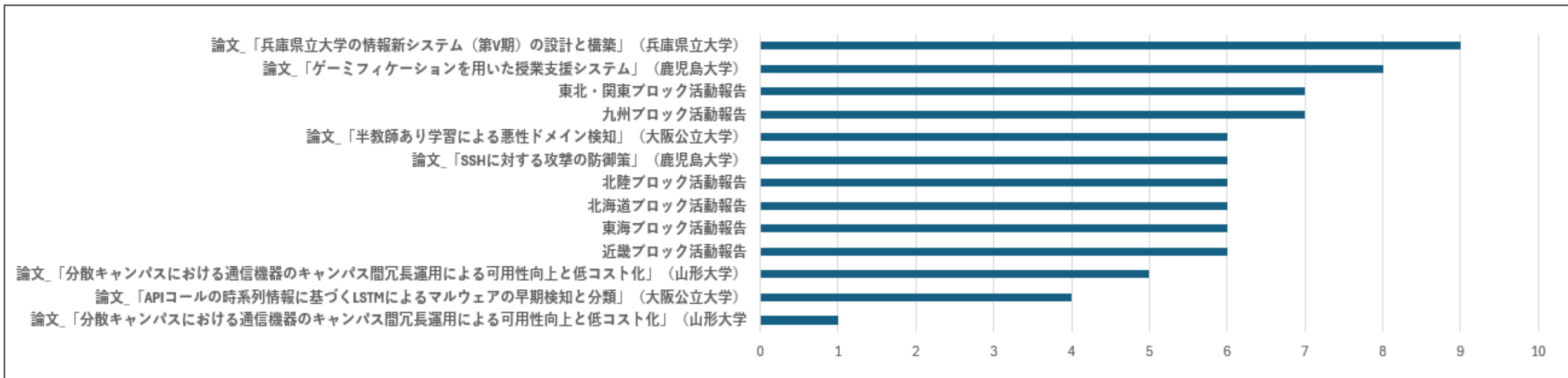
9. IS研について、「こういう風になると良い」「もう少しここをこうして欲しい」等のご意見ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

アンケート回答（1/6）

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～4

設問1

有益または参考になった発表を教えてください。



アンケート回答（2/6）

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～4

設問2

本日の総会の発表で得られた成果(疑問や課題等含めて)をお書きください。

- ・ 相変わらず「**ヒト**」と「**カネ**」が**足りない**という話が出る。もはやそのことは自明なので、足りない中でどのように工夫するかを考えるべき、ということを再認識した。
- ・ 各大学の情報系センターにおける課題、特に、**調達や人材確保の大変さ**について再認識できた。また、生成AIに関する取り組みなどは参考になった。
- ・ **学会で発表する**という**経験**をできた。（成果）質疑応答の言い回しをもう少し上手にできるようになること（課題）
- ・ 他大学での事例を伺えたこと
- ・ **AIが役に立ちそう**なところや**現場の課題**についての**情報収集**ができたこと

・各大学の課題の共有・再認識
・学生の発表の経験値UP

設問3

貴学のシステムについてベンダーに期待されることがありましたらお書きください。

- ・ 適正価格での応札（必要な対価をきちんと計上する）
- ・ 計算機システムの効率的運用が可能なソリューションなどをご提案頂き、実際に導入できればと考えております。
- ・ 大学がシステム運用上必要としていることを理解しようとしてくれる姿勢。
- ・ 技術継承

設問4

大学DXに関連して関心をお寄せの事例やテーマがあれば教えてください。

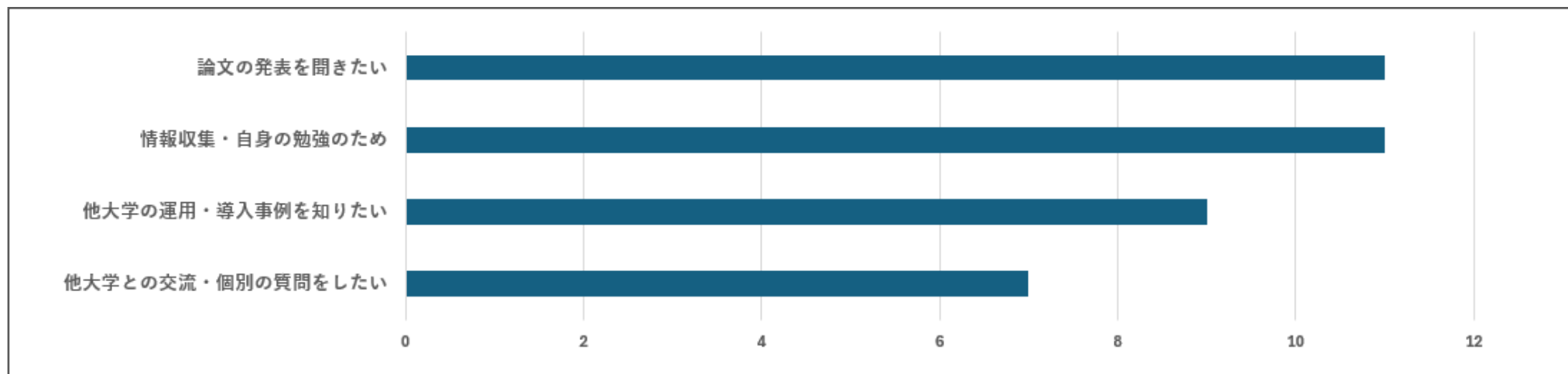
- ・ 「大学DX」を標榜せずに、情報通信技術の活用により大学業務の改革・改善を果たした例があれば知りたい
- ・ 生成AI等の利用について。
- ・ 生成AIの具体的な活用事例などに興味があります。
- ・ 教育現場でのDX化

アンケート回答 (3/6)

『総会の参加目的・満足度』に関する設問5~8

設問5

参加の目的

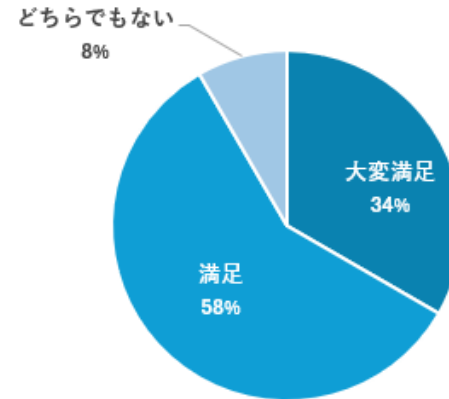


アンケート回答 (4/6)

『総会の参加目的・満足度』に関する設問5～8

設問6

全体としての満足度



満足度 : 92%

設問7

全体満足度評価の理由 (一部抜粋・省略)

- 久しぶりに現地参加したが、何も変わっていないことが分かり、嬉しいような悲しいような気持ちになった。
- 各大学の状況を把握できた点大きい。
- 質疑応答が上手にできず、研究への解像度をもっと上げるべきだったが、学会を経験できた。
- 他大学でどのようなことで苦労されているのか、どのように解決されようとしているのかを伺えたことは、有意義でした。
- 現場の情報収集できた

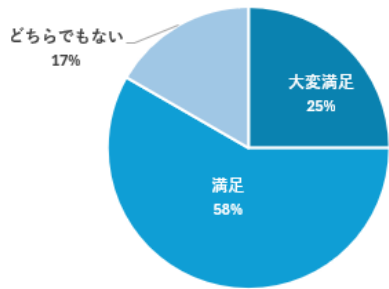
- 高評価 : 各大学の状況把握、情報収集ができた
- 低評価 : IS研総会の発展が少ない

アンケート回答 (5/6)

設問8

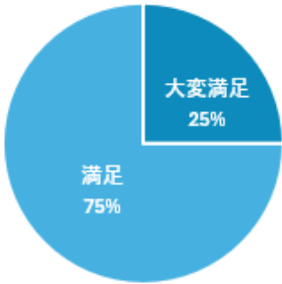
各観点での満足度について

■ブロック報告について



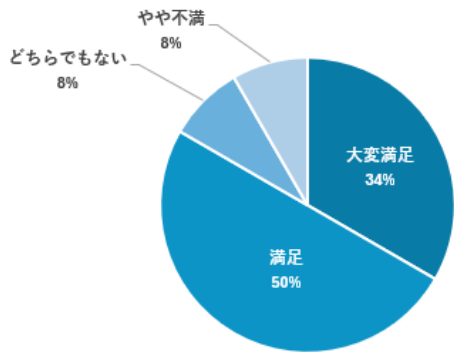
満足以上： 83%
やや不満以下： 0%

■論文発表について



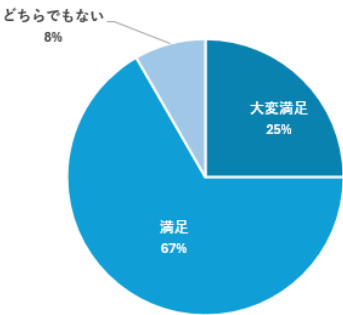
満足以上： 100%
やや不満以下： 0%

■時間配分について



満足以上： 84%
やや不満以下： 8%

■当日の運営について



満足以上： 92%
やや不満以下： 0%

アンケート回答 (6/6)

『IS研への期待・意見』に関する設問9

設問9

IS研についてのご意見・ご要望

- 九州ブロックの集まりの後の大学・富士通混在の懇親会では大学同士も含めた交流が行われているが、総会では**大学同士の交流**が少ないように見受けられた。
今回話が出た、北海道＋九州のように2つ程度の**ブロックを組み合わせた交流**を積極的に行うことで、大学同士の交流を増やすことができ、IS研全体の活性化にもつながるのではないかと。
- 今回の総会は、少し時間がタイトだったかと思います。
- お世話になりました。ありがとうございました。

・大学間の交流が少なかった
・ブロックを組み合わせた交流が活性化に繋がる



この資料は、IS研の資料です。

IS研・CS研会員の組織外および富士通グループ外への公開・
配布はご遠慮ください。

国公立大学情報システム研究会 事務局

〒 212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー
富士通Japan株式会社 P&Eビジネス戦略室内

ホームページ : <https://csis.ufinity.jp/isken>

E-mail : fj-isken-bureau@dl.jp.fujitsu.com